

南丘・塩狩里山保全会

「和寒町」



放棄された林内農地を森に戻したい

旭川から北に向かって塩狩峠を越えたあたりが和寒町塩狩地区です。その南寄りに位置する南丘と、平野部の中和の森、この3カ所が私たちの活動エリアです。

和寒町は、太平洋戦争前まで、除虫菊の生産量世界一だった時代があります。除虫菊を育てるには山を切り開いてから最初の数年がベストだそうで、新しい畑を作るために、今では信じられないほど山奥まで伐採が入っていました。しかし除虫菊生産が衰退すると畑は放棄され、ササやぶや原野と化しています。

いま農業の重要課題のひとつは、エゾシカやアライグマ対策です。畑のまわりで侵入防止柵の設置が進んでいますが、そのそばで草やぶ状態になってしまった放棄地が、草食性のエゾシカの格好の繁殖地になってしまっています。そういう場所で僕らが森を再生して、農業・林業の両方向から、畑を守りつつ山も育てていけたらと考えています。

山奥にまで畑が作られていたと話しましたが、農道と林道が共用されたりして、だれが管理者なのか分からない状態の場所も多いので、そうした場所の整備にもこの交付金事業で取り組んでいくつもりです。

農閑期のトラクターを有効利用

私たち里山保全会は、数年前から子どもたちの体験学習を主催してきた町民グループを母体に、地元の農家のほか、地元の家具工房や木彫家・陶芸家、また新規就農者を含む農家や林業関係者が構成されています。普段から草刈り機・チェーンソーを使っているメンバーも多いのですが、交付金事業開始にあたって改めて基本を確認しておこうと、安全講習会を開きました。交付初年度にあたり、安全対策としてヘルメットやゴーグルを揃えることもできました。

現場では、チップパーや薪割り機など、別事業の農地保全のメニュー(除伐木の処理)でリースした機械を森林作業にも役立てました。これらの機械は農業用トラクターと組み合わせて動かします。どの農村でも夏場は空いているトラクターが多いでしょう。それを活用すれば能力の高い機械を低コストで使えるので、とてもよい方法だと思います。

同じくリースした運搬車も重宝しました。幅1mほどの小さな機械ですが、軽トラックが入れない細道にも入って、伐採木などを最大2tまで運び出すことができます。ウインチ付きで、1台で何役もこなしてくれました。交付金事業の「資機材」にあたると思うので、ほかの地域の活動組織のみなさんにもお勧めします。

私たちの活動は主に「地域資源活用タイプ」です。伐採木で薪を生産し、地元の炭焼き窯に供給しました。この炭焼き窯では、従来は町外から薪を購入していたのですが、今年度から私たちの活動にも参画してもらい、森づくりのためにと、少しずつ薪の購入を進めてくれています。

また近年は「スウェディッシュトーチ」と呼ばれる形態の薪がキャンパーたち間で人気があるそうです。町内に何か所かあるキャンプ場にこのタイプの薪を供給できないかと、試験的な加工を始めたところですが、

いっぽうで、活動の課題は、やはり労力確保の問題です。体験学習・体験イベントなどを開いて町外からの参加者も呼び込みながら、ボランティアを見つけていけたらと思います。

この交付金活動では、すでに森林経営計画を持つ森は対象外ですが、そうした森も同時に手入れしていけば、もっと一体的に魅力的な地域づくりができるように思います。そうした活動に取り組むための財源を自分たちで生み出していく工夫も必要だと、仲間と相談しているところです。



報告者

西川 直哉さん

